

誰もが活躍できるまちへ

垣根なくし地域で交流

北九州市では古くから、敷地の一部を開放している高齢者施設や福祉施設があります。多くの世代の人たちと交わることで、入居者にも活力が生まれていきます。新たな試みとして大規模マンションが地域と積極的に関わろうとする動きも進んでいます。

「共生」のまちづくり挑戦



大英産業が事業を進めている「ザ・サンパークシティ黒崎」は多世代・地域・自然との共生を目指しています

「私たちにとってはまさに挑戦なんです」と、大英産業マンション事業部長の茅原嘉晃さんは話します。黒崎地区の八幡西区役所跡地約1万平方メートルに、256戸の大規模マンションを建てることだけではありません。入居者同士の交流をイベントなどでサポートするとともに、近隣住民にスペースを開放、近くにある公的施設などと連携し、一つのコミュニティーをつくらうとしているのです。「一般的にマンションを求める方はコミュニティーをあまり重視せず、マンション自体が閉鎖的になりがちですが、私たちは逆のことをやろうとしているのです」

キーワードは「共生」です。当初案では、同じ敷地内にファミリー住宅棟とは別にシニア棟を建てる予定でしたが、顧客の要望を伺い、社内議論を重ねた結果、住宅棟を分けず、一つの棟にして建設することにしました。棟を分ければ「共生」の理念が薄れると感じたからです。同じ敷地内のドラッグストアと協力し、入居者の健康管理・増進を図るほか、1階にはセミナーやサークル活動などに利用できる「アクティビティールーム」や勉強会、ワークショップなどに活用できる「スタディールーム」を設け、近隣の方にも開放します。敷地内の一部も公開空地として誰でも通行ができるスペースにする予定です。

入居者と永続的に

マンションはワンルームから6LDKまであり、多世代のさまざまなライフスタイルに対応します。「6LDKは現代版サザエさん一家のイメージです。同じフロアで3～4世代の家族が暮らす感じです」。6LDKは1戸で、5LDKは3戸設ける予定です。

大英産業は九州・山口地区のマンション販売実績が常にトップクラスにある不動産会社です。ただ、これまでは他の業者と同様、販売が中心で、分譲後は入居者との関係は薄れがちでした。今回のマンションは、入居者との関係を永続的に保ち、一人一人が生き生きできる場を創り上げようという試みです。「新しいマンションの姿を提案したい」と意気込みます。マンションは2019年8月完成予定です。